

分科会 I 第 2 分科会

テーマ「9年間を通して、人間としての生き方の自覚を深める道德教育をめざして」

提 案 者 府中市立上下中学校
司 会 者 府中市立府中学園
記 録 者 府中市立第一中学校
指導助言者 広島県西部教育事務所

1 はじめに

上下町は府中市の北部に位置し、自然環境に恵まれた景観の美しい地域であり、中心地には昔ながらの白壁や土蔵の町並みが保存され、歴史と文化の町として観光客も多く訪れる町である。

本校は、上下北小学校、上下南小学校との3校で上下学園を形成し、併設型小学校・中学校として小中一貫教育を推進している。学園として9年間を通して目指す子ども像を共有し、学園で共通の研究主題を設定して研究を推進してきている。

本学園3校は、平成26年度まで「道德教育改善・充実」総合対策事業メニュー3（学校・家庭・地域の連携による道德教育の充実・発展）の地域指定を受け、地域・保護者と連携して地域まるごと宣言「みんな大好き わが郷土 上下」の実現に向けて取り組んできた。成果として、学校・地域がお互いに理解を持って双方向に協力する体制を構築できたことにより、平成29年度に指定された「学校・家庭・地域が協働して子どもを育てていくコミュニティ・スクール」への導入につなげることが十分にできた。「地域にありがとう 地域からありがとう」のコンセプトのもと、子どもたちが地域とかかわり合いながら学ぶ中で、学校と地域が有機的につながる環境を整え、活動を進めている。

また、昨年度からは、「道德教育改善・充実」総合対策事業メニュー2（小中連携による道德教育の充実・発展）の指定を受け、道德的価値を深めたり、道德的価値を実現したりするための資質・能力を養うための指導の充実に取り組み、「考え、議論する」道德への変換を図りながら、「9年間を通して、人間としての生き方の自覚を深める」ための研究実践に取り組んでいる。

2 研究のねらい

本年度は、研究主題を『学びに向かう力』を育成する授業の創造～『課題発見・解決学習』における『対話的な学び』の質的向上を通して～』と設定した。

生徒実態として、他者から肯定的評価をもらっていても、自信のなさから自己肯定感の高まりが低いことに課題が見受けられる。（「自分のよさは周りの人から認められている」の項目における肯定的評価74%：平成29年）また、表現する場が広がったり対象となる他者が多様化したりすると、表現することに対して消極的になるという傾向があり、自らへの自信や自己肯定感が低いという課題も調査から見とれた。そこで、『対話的な学び』の質的向上を通して、『考え、議論する道德』へと授業改善を図ることで、教職員の授業力が向上するとともに、児童生徒は多面的・多角的に考えることにより、自己を見つめ、自らへの自信を深めることができるであろう』と研究仮説を立て、研究に取り組むこととした。

3 研究の内容

(1) 道德的価値の理解を深めたり、道德的価値を実現するための資質・能力を養う指導を充実させ

ることによる「対話的な学び」の質的向上

- (2) 学習者が自らの成長を実感し、意欲の向上につながる評価の実現
- (3) 「特別な教科 道徳」が道徳教育の「要」となるためのカリキュラムマップの作成
- (4) 道徳科で学んだことを実生活に広げる活動の工夫

4 研究の実際

(1) 指導の充実

ア 上下4校で重点的に高めたい資質・能力 資料1

道徳的価値を実現するための資質・能力の育成を目指し、上下学園3校（上下北小学校・上下南小学校・上下中学校）と上下高等学校の小中高4校が一体となって、育成する資質・能力の系統を明確にし、共有している。小学1年生から高校3年生までの12年間で重点的に高めたい資質・能力を系統的に示すとともに、コミュニティ・スクールとしての強みも生かし、学校運営協議会でも共有し、学校・地域が一体となって児童生徒をより効果的に育成していくこととした。

イ 学びのプロセス

「対話的な学び」の質的向上を通して、「考え、議論する道徳」へと授業改善を図り、高めたい資質・能力を身に付けるために、「特別な教科 道徳」の授業づくりにおける視点を「学びのプロセス」として設定し、小中9年間共通して行っている。上下学園における「学びのプロセス」は次の6つに整理した。



- ①学習の見通しをもたせる工夫（考えたい価値の方向付け，学習者全員で共有）
- ②思考を深める工夫（個人思考，グループ交流，全体交流，自己を見つめる）
- ③話し合い活動の工夫（発達段階や教材に応じた学習の場づくり）
- ④発問の吟味（模擬授業や研修で全教職員で吟味）
- ⑤板書の工夫（構造的な板書）
- ⑥振り返りの工夫（自己の生活に結びつける「あ・や・め」振り返りシートの活用）である。

ウ 合同授業研修及び授業づくり研修

上下学園の小中全教員で道徳の授業を研修する。研修前には、各校で必ず模擬授業を行い、発問の吟味や対話の在り方などを論議していく。

また、小中合同で講師を招聘した授業研究、教材分析及び指導案作り、理論研修などを実施し、授業力の向上はもとより、9年間の見通しを持って同じ視点で研究を進めていくことを目指した。



(2) 振り返りの工夫及び評価

ア 「あ・や・め」振り返りシートの活用 資料2

学習指導要領解説「特別な教科 道徳編」の目標に、「道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める」とあり、それに合わせて児童生徒が自己と向き合い自己評価することのできる上下学園統一の「あ・や・め」の振り返りシートを作

3 ※「あ・や・め」(振り返り) ※

・今日の授業から、学んだこと、自分が考えたことをまとめよう。

項目	評価	あ	や	め	合計
あ：(新たな発見) 自分を見つめ、気づいたこと		4	3	2	1
や：(やりとり) 友達の考えから学んだこと		4	3	2	1
め：(目標達成) これからの生活に活かしていること		4	3	2	1

*「あ・や・め」(振り返り)は、「特別な教科 道徳編」に掲載されています。

成し活用している。「あ・や・め」とは以下の3点であり、児童生徒が道徳の時間の終末で、毎回自己評価する。

- 「あ」（新たな発見）：自分を見つめ、新たに気づいたこと（道徳的諸価値の理解）
「や」（やりとり）：友達と考えから分かったこと（多面的・多角的に考える）
「め」（目指す自分）：これからの生活にいかしていくこと（人間としての生き方）

このシートは小中9年間活用する内容のものであり、毎時間のシートを内容項目ごとにファイルに集積し、9年間の持ち上がりとしている。

イ 「心のステップアップシート」の活用（自己評価） 資料3

児童生徒が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる自己評価をめざし、「心のステップアップシート」を本年度作成した。このシートには1年間のはじめに「なりたい自分のあり方」を記入し、各学期の終わりには、道徳の授業での毎時間の「あ・や・め」の振り返りシートや現在の自分を振り返り、「理想とする在り方に対する現在の自分の姿」を記入する。1年間の終わりには「来年はこうありたい」という自分のあり方を綴る評価活動により、自己を振り返り、自己の成長を実感できる取組とする。...



ウ 「あ・や・め」振り返りシートの分析（教職員の授業改善に向けて）

1時間ごとに振り返りを分析し、多面的・多角的に考えることができる問いであったか、対話の仕組み方が適切であったか、生徒が価値理解できていたか、今後の生活につながる手立てはどうであったかなどをシートや児童生徒が自己評価した数値から見とり、授業者としての今後の授業改善に役立てる資料とした。また、生徒の振り返り等を個票にまとめ、年間での生徒自身の成長をみとるシートの作成を行い、この個票やワークシート、「心のステップアップシート」をもとに1学期終了時に教職員の評価の研修を行った。

(3) カリキュラムマップの作成と活用 資料4

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などで学習した道徳的諸価値を、道徳科の視点から捉え直し、発展させていくことができる。そこで、各教科や総合的な学習の時間及び学校行事等の関連を図るとともに、上下学園9年間の系統立てた学びを意識して、「学びの地図」を作成した。今年度は、「希望と勇気 努力と強い意志」「友情、信頼」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」の3つの内容項目（重点項目）に関するものを作成し、活用を始めた。...

上下学園「学びの地図」（希望と勇気、努力と強い意志）

Table with columns for '期' (Period) and '単元' (Unit) across different grade levels (小学校, 中学校) and subjects (道徳, 国語, etc.).

(4) 道徳科で学んだことを実生活に広げる活動の工夫

道徳教育は、学校教育活動全体を通して行うものである。「特別の教科 道徳」は道徳教育の要であり、授業での道徳的価値の高まりを学校生活や日常生活に広げるために以下のような取組を行って

いる。

ア 「心の木」の活用 資料5

道徳の時間の中で考えたことを今後の生き方につなげたり、授業後にも集団とつなげたりするために各教室の「心の木」に掲示する。内容項目ごとに色分けしたリンゴに考えを記入し、価値観を広げたり深めたりし、振り返りがいつでもできる環境をつくる。小中すべての各学級で活用している。



イ 「ステップアップシート」の活用 資料6

学校行事等で、児童生徒が高めたい資質・能力を自らが選択し、目指す自分の姿を描いておく。活動後、それがどのように高まったかを自己評価する。これらを校内に掲示し、それぞれの自己肯定感を高めていくためのものとした。

ウ コミュニティ・スクールとしての活動との連携等 資料7

道徳の時間の「公德心」「郷土を愛する態度」との関連を図り、道徳の時間に考えたことを実践する場として地域と共に活動を行う「小中高合同清掃活動」を効果的に活用した。町内会長さんをはじめとして多くの地域の方々の協力を得て、児童生徒に声かけをしてもらったり、地域の方の思いを児童生徒に伝える活動を仕組んだ。可能な範囲で、道徳の時間のカリキュラムマネジメントを行っている。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・道徳の時間において学びのプロセスを確立し、生徒が対話的な学びから多面的・多角的に考えを深め、自己を見つめることで、質問紙の結果から、研究のねらいとしていた以下の3点に一昨年度4月から肯定的回答に伸びがみられた。
 - ア 「自らへの自信」に関する項目
 - イ 「友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」
 - ウ 「自分のことを振り返りながら考えている」
- ・上下学園として、小中で意識統一をして、「学びのプロセス」をもとに授業づくりを行ったり、「学びの地図」の活用により、生徒自身の学習が深まってきている。また、年度初めには、教員の転入・転出はあるが、教員が「学びのプロセス」「学びの地図」をもとに9年間の系統を意識して指導を行う手立てとなった。
- ・「あ・や・め」の振り返りシートを集積したり、「心のステップアップシート」の活用をしたりすることにより、児童生徒自身が自らの成長をみとる手立てとすることができた。また、教員の授業改善の視点で活用することもできた。

(2) 課題と今後に向けて

- ・教材分析や発問の吟味などの質を高め、「対話的な学び」の質的向上をさらに図り、自己の生き方の自覚を深める道徳教育の充実に努める。
- ・「学びの地図」の改善等を含めたカリキュラムマネジメントを進める。